

『大衆文化』既刊号目次

創刊準備号(二〇〇八年三月)

[口絵]乱歩/喧騒の車町時代(昭和八～九年)

創刊の辞	藤井淑禎	
庶民モラルとしての「任侠」とは何か—佐藤忠男『長谷川伸論—義理人情とは何か—』をめぐって—	筒井清忠	1
市川崑の「ころろ」	藤井淑禎	9
舞台劇『放浪記』をめぐって—テキスト<林芙美子>の行方—	羽矢みずき	18
雲を凌ぐ—「押絵と旅する男」と浅草十二階—	丹羽みさと	30
大衆娯楽雑誌『平凡』と評論家大宅壮一—ふたつの研究から見えてくるもの—	阪本博志	39
中国における日本の大衆文化研究の現状と展望	王 成	45
江戸サブカル紀行—八百屋お七と岡山—	渡辺憲司	57
翻刻 二銭銅貨	落合教幸・藤井淑禎	63
編集後記	石川 巧	70

創刊号(二〇〇九年四月)

[口絵]張ホテルの乱歩/郊外への第一歩(昭和九年)

[巻頭エッセイ]「二十面相」世代の乱歩観	紀田順一郎	
酸素カフェテリアと死者の町— ^{ネクロポリス} 大衆情報消費社会における酸素マスク表象—	原 克	1
乱歩と大東京	藤井淑禎	11
「九州演劇」とその時代	石川 巧	21
日本におけるルバーシカ着用の起源をめぐって	小林 実	37
昭和十四年、「犯人」形成の新たな試み—江戸川乱歩「暗黒星」論—	落合教幸	53
韓国における論介と春香の受容	岩谷めぐみ	63
天満天神繁昌亭の成立と展開	恩田雅和	75
歌舞伎としての乱歩—小説『人間豹』から歌舞伎『江戸宵闇妖鉤爪』へ—	松本和也	83
韓国における日本大衆文化の受容について	金 惠珍	95
編集後記	石川 巧	117

第二号(二〇〇九年九月)

[口絵]作家専業へ/D坂の殺人事件(大正十三年)

翻刻「D坂の殺人事件」草稿	落合教幸	2
「依頼型」から「巻き込まれ型」へ—江戸川乱歩「D坂の殺人事件」草稿覚書—		
.....	落合教幸	37
校門の外をめざした学校唱歌—卒業式による広報戦略—	有本真紀	44
「月の沙漠」の系譜学—流行歌とアラビア表象—	舌津智之	59
貸本屋と読書サークルの時代—吉川英治『宮本武蔵』と大衆読者—	藤井淑禎	69
オバマ報道を考える	黄 盛彬	79
戦後台湾における日本大衆文化の受容—アイデンティティの構築と脱構築—		
.....	林 鴻亦	89
「九州演劇」総目次	石川 巧	101
編集後記	藤井淑禎	112

第三号(二〇一〇年四月)

[口絵]中日・美男子カタログ

中国の芝居の文系男子問題	細井尚子	2
メディアミクス文化史のなかの江戸川乱歩と横溝正史	江藤茂博	20
映画のなかのカメラ	三浦雅弘	32
俳諧大衆化の二方向—形式の縮小化と数量の拡大化—	加藤定彦	40
大宅壮一の文化大革命レポート	藤井淑禎	53
ワルキューレはさまよう	平山城児	66
見るものと見られるものをめぐって—結城座『乱歩・白昼夢』—	後藤隆基	71
翻刻「人間椅子」草稿	落合教幸	76
編集後記	藤井淑禎	85

第四号(二〇一〇年九月)

[口絵]明治戯作の世界—『^{じせいまはりどうろう}時勢走馬 燈 一名 親父肝潰誌』という書物』より—

大衆メディア史を反射する「鏡の女」—女優・ひし美ゆり子の足跡—	樋口尚文	2
嬰殺旗本探偵実話 断ち切られたものたちの闇	浜田雄介	12
窯変・橋本治—告白—	後藤和彦	24
「男女共同参画社会」をめぐる一考察—「第三次男女共同参画基本計画」策定の年にあたって—		
.....	近藤 弘	37
『風と共に去りぬ』と戦後日本人	藤井淑禎	46
『 ^{じせいまはりどうろう} 時勢走馬 燈 一名 親父肝潰誌』という書物	池田一彦	61
『明烏後正夢』における説経祭文の受容—人情本と大衆芸能—	坂口香惠	73

編集後記	藤井淑禎	81
------	------	----

第五号(二〇一一年四月)

[口絵]ベル・エポックの自動車文学

パノラマ文化史管見—『パノラマ島奇談』の余白に—	副島博彦	2
ルパン誕生前のルブラン—スピードの魅惑—	坂本浩也	10
漢字と日本語・日本語教育	沖森卓也	21
大衆作家が描いたく安保—石坂洋次郎『あいつと私』と舟橋聖一『エネルギー』	藤井淑禎	35
円朝の現在	宮 信明	49
砂書房版『松本清張研究』奮闘記	田中伸和	60
翻刻「活動写真のトリツクを論ず。」	落合教幸	69
編集後記	藤井淑禎	88

第六号(二〇一一年九月)

[口絵]漱石と鎌倉—「紅が谷の青い空・再説」より

—飄亭、不折、子規と三陸大津波—「海嘯」十四句をめぐる—	加藤定彦	2
紅が谷の青い空・再説—『行人』『心』、二つの鎌倉	藤井淑禎	10
オペラへの迷い言	守屋省吾	28
占領期の大宅壮一をめぐる「点と線」	阪本博志	36
大正期における『歌舞伎新報』の復活	後藤隆基	43
翻刻「映画論」	落合教幸	57
編集後記	藤井淑禎	69

第七号(二〇一二年四月)

[口絵]熊谷市青山の根岸家住宅長屋門

原発建設時代の日本のSFアニメ	秦 剛	2
熊谷市青山に残る歴史遺産—根岸家住宅長屋門について—	横山晋一	11
三島由紀夫 vs. 増村保造—映画「からっ風野郎」とその後の三島の身体イメージをめぐる—	安 智史	19
映画『男はつらいよ』にみる活版印刷	滝口富夫	33
『女の一生』はなぜ『人形の家』に勝てたのか	藤井淑禎	44
依藤丈夫編集長下の『歌舞伎新報』	後藤隆基	62

サイレント映画脚本の周辺	若井尚子	78
翻刻「トリック写真の研究」	落合教幸	88
編集後記	藤井淑禎	131

第八号(二〇一三年一月)

[口絵]江戸川乱歩 色紙

映像メディアの力—中国における清張ミステリーの受容—	王 成	2
スキャンダルの両義性—明治の女学生バッシングから「新しい女」へ—	岡田章子	12
川上音二郎と竹越與三郎	後藤隆基	21
囚われない三三—「柳家三三で北村薫。」評—	大塩竜也	34
翻刻「死」	落合教幸	43
編集後記	落合教幸	59

第九号(二〇一三年九月)

[口絵]大衆文化九号 資料

<文壇作家>時代の松本清張・I—「多芸は無芸」の危うきのなかで—	藤井淑禎	2
『ソヴェト文化』総目次	吉田則昭	16
二代目団十郎と江戸の開帳興行—不動明王を中心に—	ビュールク・トーヴェ	30
亀井勝一郎「読書の態度と実際」(一九四二年)—翻刻と解題—	赤堀杏奈	49
江戸川乱歩『心理試験』の精神分析—典拠から技法へ、すなわちユングからラカンへ—	中原雅人	62
翻刻「踊る一寸法師」草稿	落合教幸	76
編集後記	落合教幸	83

第十号(二〇一四年三月)

[口絵]母校・大阪府立茨木高等学校の創立七〇周年記念講演会での大宅壮一

日本人の蔵書志向と江戸川乱歩	紀田順一郎	2
ボンスから二十面相へ—蒐集家としての怪盗の肖像—	菅谷憲興	9
夏目漱石『門』の御米について	藤井淑禎	20
<老い>の中の獅子文六／岩田豊雄—『可否道』『出る幕』—	米山大樹	31
中学生時代の太宅壮一—時事新報社発行の雑誌『少年』への投稿活動と学業成績—	阪本博志	44
江戸川乱歩・野村胡堂往復書簡—黒岩涙香本をめぐる—	丹羽みさと	60

井上良夫宛江戸川乱歩書簡	落合教幸	88
編集後記	落合教幸	104

第十一号(二〇一四年九月)

[口絵]江戸川乱歩旧蔵書より、フィルポッツ、井上良夫関連図書

啄木短歌における大衆性について	太田 登	2
吉永小百合主演映画とベテラン俳優宇野重吉の役割—「愛と死をみつめて」(昭和三九)の場合を中心として	藤井淑禎	12
戦後日本における海外短波放送のリスナー	井川充雄	21
文学の中の「骨相学」—夢野久作『ドグラ・マグラ』から	鈴木優作	32
沖野岩三郎の〈実話もの童話〉	六川綾夏	40
『貼雑年譜』に見る江戸川乱歩と山手樹一郎の交流	影山 亮	49
井上良夫宛江戸川乱歩書簡(2)	落合教幸	59
編集後記	落合教幸	80

第十二号(二〇一五年三月)

[口絵]旧小中野遊郭の新むつ旅館(新陸奥楼)

職業作家・松本清張の出発—全集未収録小説「女に憑かれた男」、「溪流」を読む—

	石川 巧	2
日本統治時代の台湾におけるラジオ体操	井川充雄	21
松本清張と「連環画」との遭遇—イメージの増殖と変容—	尹 芷汐	35
「蛇性の姪」における雄黄について	相馬真理子	51
旧制茨木中学校における一九二〇年のストライキと大宅壮一	阪本博志	61
翻刻「恐ろしき錯誤」草稿	落合教幸	83
編集後記	落合教幸	111

第十三号(二〇一五年九月)

[口絵]戦後池袋

乱歩邸の旧所有者坂一族について	藤井淑禎	2
巨大ターミナル池袋の変遷とゆくえ	古田土紗季	9
戦後池袋演劇史—アバンギャルドと池袋文化劇場—	後藤隆基	31
昭和二十年、罹災直後の数通の手紙—江戸川乱歩の空襲体験—	落合教幸	51
編集後記	落合教幸	77

第十四号(二〇一六年三月)

[口絵]戦後池袋 ヤミ市から自由文化都市へ

「戦後池袋—ヤミ市から自由文化都市へ—」展示企画展報告	石川 巧	2
「不滅の江戸川乱歩展」報告	北村一男	21
秋の収蔵資料展「池袋ヤミ市と戦後の復興」について	横山恵美	25
「池袋＝自由文化都市プロジェクト」における立教学院展示館の展示について	豊田雅幸	31
池袋の戦後史をめぐる〈場〉とにぎわいの創出		
—「池袋＝自由文化都市プロジェクト」にみる大学の地域連携の道筋—	後藤隆基	45
旧江戸川乱歩邸特別公開—《池袋＝自由文化都市プロジェクト》—	落合教幸	57
鏡地獄—江戸川乱歩「鏡地獄」戦後改稿版—	落合教幸	61
編集後記	落合教幸	89

第十五号(二〇一六年十二月)

[口絵]江戸川乱歩の創作ノート(昭和三十年)

戦後池袋の娯楽文化とロサ会館	伊部知顕	2
都市における地域学としての「池袋学」の可能性(一)—立教大学と東京芸術劇場による地域連携の実践—	後藤隆基	17
飢えと混乱を生きること—梅崎春生「飢えの季節」論—	渡部裕太	35
江戸川乱歩の創作ノート(昭和三十年)—「化人幻戯」「影男」「月と手袋」『十字路』と少年探偵—	落合教幸	55
編集後記	落合教幸	88

第十六号(二〇一七年三月)

[口絵]二〇一六年の江戸川乱歩関連展示／仁木悦子資料

【二〇一六年の江戸川乱歩関連展示】

江戸川乱歩、巴里にやって来た。	ジェラルド・ブルー	3
異なるジャンル、共通する感覚—萩原朔太郎生誕百三十年記念・前橋文学館特別企画展…「パノラマ・ジオラマ・グロテスク—江戸川乱歩と萩原朔太郎」を開催して—	津島千絵	9
特別展「ビブリア古書堂の事件手帖」を開催して	小田島一弘	16
「日本ミステリー文学展～藤田宜永からの招待状～」を振り返って	尾崎秀甫	20
解放後の韓国における大衆芸能に関する一考察—薬売り・パルタル・女性芸能団体の再評価—	神野知恵	25
カルチュラル・アサイラム—中国インディペンデント・ドキュメンタリーの透明な砦—		

.....	秋山珠子	37
大正末期から昭和初期における探偵小説と演劇の交差—江戸川乱歩宛長谷川伸書簡群を視座として—		
.....	後藤隆基	53
仁木悦子・江戸川乱歩書簡	落合教幸	97
編集後記	落合教幸	112

第十七号(二〇一八年一月)

『高見順全集』未収録小説「真砂子」の紹介・解題	松本和也	2
江戸川乱歩 未発表小説草稿「ダアキン氏小瘤」翻刻および解題	落合教幸	19
華人文化圏に広がる新劇—オスカー・ワイルド『ウィンダミア夫人の扇』を例に—		
.....	鈴木直子	35
江戸川乱歩自筆稿本『家蔵同性愛関係書』目録 1—日本之部—	丹羽みさと	43
編集後記	(N)	83

第十八号(二〇一八年三月)

<天才>と<犯罪者>のあいだ—大正期谷崎作品の人物造型をめぐって—		
.....	金子明雄	2
一九五〇年代における雑誌『明星』の連載小説とそのメディアタイアップ展開		
(付・一九五〇年代『明星』連載小説一覧)	阪本博志	17
遠藤周作の新発見資料「アフリカの體臭」について	杉本佳奈	37
江戸川乱歩自筆稿本『家蔵同性愛関係書』目録 2		
一和本目録、洋書目録、西洋に関するもの、東洋に関するもの—	丹羽みさと	47
編集後記	(N)	69

第十九号(二〇一八年十月)

近世の俗文芸と「お竹大日」伝承—文化文政期を中心に—	神林尚子	2
日本統治下台湾における時差撤廃とラジオ	井川充雄	19
戦時下の北京における出版物取締と雑誌『月刊毎日』	石川 巧	33
まなざしへの抵抗—岡崎京子『ヘルタースケルター』論—	村松まりあ	53
「ナイフ」の向かう先—江戸川乱歩「人間椅子」試論—	入山洸希	77
『<ヤミ市>文化論』書評—眩しい都市—	川崎賢子	93
パネル発表「江戸川乱歩所蔵資料の活用による探偵小説研究」の発表報告		97
編集後記	(K)	101

第二十号(二〇一九年三月)

豊子愷の「詩画」意識と「黒画」批判……………南雲大悟……………	2
演歌は「演じる歌」か?—近代日本における大衆音楽と上演文化のミッシング・リンク— ……………輪島裕介……………	19
「黒蜥蜴」の表象をめぐって—江戸川乱歩『黒蜥蜴』論—……………海老澤彩香……………	40
挿絵画家としての中村研一—「海燕」「女の一生」「春の行列」「花と兵隊」— ……………松本和也……………	56
江戸川乱歩旧蔵『古版奇術書』同梱資料—山本慶一宛・乱歩発書簡控えを中心に— ……………米山大樹……………	75
編集後記……………(N)……………	91

第二十一号(二〇一九年十月)

座談会「新派百三十年とその未来」 喜多村緑郎／河合雪之丞／齋藤雅文／神山 彰(司会)……………	2
憧れを抱いて芽吹く—大石真「教室二〇五号」論—……………石橋 剛……………	23
夢野久作の受験生時代とその交友……………川下俊文……………	41
植民地朝鮮の「孤立」された作家金来成と江戸川乱歩……………姜 泰雄……………	71
覗かれるもの／覗くもの—「押絵と旅する男」再考—……………丹羽みさと……………	85
編集後記……………(N)……………	101

第二十二号(二〇二〇年三月)

佐野史郎氏特別講演記録「乱歩と戦争」佐野史郎／細井尚子／金子明雄(司会)……………	2
侍と探偵の蜜月—大衆文学ジャンルの再編成における捕物帳—……………影山 亮……………	20
新派と歌舞伎のあいだ—五代目中村芝翫の家庭小説劇をめぐって— 金子 明雄……………	42
語る<女>と語られる<女たち>—永井荷風『つゆのあとさき』における語り論— ……………金田みか……………	58
ハイジンの行方—江戸川乱歩「二癡人」論—……………出口 歩……………	76
旅立つ「兄」—江戸川乱歩「押絵と旅する男」論—……………横田 遼……………	93
翻刻「経済学と心理学との関係を論ず。」……………松本陸杜……………	113
編集後記……………(N)……………	130

第二十三号(二〇二〇年九月)

艶めかしき怪談—江戸川乱歩「人でなしの恋」論(上)—……………石川 巧……………	2
--	---

江戸川乱歩「孤島の鬼」の着想を巡って……………	小松史生子……………	20
岸田國士「かへらじと」を読む—移動演劇の作劇術—……………	松本和也……………	37
「Pink」から『pink』へ—岡崎京子『pink』論—……………	村松まりあ……………	55
編集後記……………	(N)……………	70

第二十四号(二〇二一年三月)

艶めかしき怪談—江戸川乱歩「人でなしの恋」論(下)—……………	石川 巧……………	2
犯罪・活動写真・探偵小説—ジゴマ騒動と犯罪フィクションをめぐる言説の再配置— ……………	井川 理……………	18
撞着する思想と形式—夢野久作『ドグラ・マグラ』を中心として—……………	松田祥平……………	37
占領下の時代小説ジャンルにおける<新古交代>言説……………	影山 亮……………	52
不可視化される占領と強調される戦争体験の残存性—野間宏『崩解感覚』論— ……………	秀島希望……………	72
江戸川乱歩旧蔵資料にみる探偵作家クラブの出発—「レビュー殺人事件」脚本と乱歩直筆原案を調査する— ……………	米山大樹……………	88
編集後記……………	(N)……………	112

第二十五号(二〇二一年九月)

明治末年における西洋美術受容・再考—言説上の印象派 <small>インプレッショニズム</small> ・後期印象派 <small>ポスト・インプレッショニズム</small> — ……………	松本和也……………	2
レジス・メサックの博士論文とヴァルター・ベンヤミン—探偵小説の起源をめぐる— ……………	槇野佳奈子……………	20
占領を解かれた「宮本武蔵」—新国劇版ラジオドラマを読む(一)—……………	石川 巧……………	34
戦後の宝塚歌劇—植田紳爾の仕事から見る—……………	王 楽水……………	52
境界としての「からだ」—井上ひさし『シャンハイムーン』論—……………	牛 路遥……………	71
編集後記……………	川崎賢子……………	87

第二十六号(二〇二二年三月)

占領を解かれた「宮本武蔵」—新国劇版ラジオドラマを読む(二) 承前 ……………	石川 巧……………	2
江戸川乱歩「屋根裏の散歩者」完成地における信仰の様態—三重県亀山市関町岩屋観音をめぐって— ……………	宮本和歌子……………	17
童謡はなぜ<怖い>のか—言説の背景とその機能について—……………	井手口彰典……………	32

影山三郎とアジア—東京帝国大学在学時と立教大学在職時をつなぐもの—	阪本博志	51
『新青年』研究後悔記.....	浜田雄介	66
勉誠出版『江戸川乱歩大事典』書評—江戸川乱歩研究の基盤構築—	宮本和歌子	88
翻刻「恐ろしき錯誤プロット」.....	塩井祥子	93
江戸川乱歩の土蔵内洋書目録—蔵書印のある書籍を中心に—	宮本祐希	126
編集後記.....	井川充雄	127

第二十七号(二〇二二年九月)

江戸川乱歩「お化人形」に描かれた神戸.....	宮本 和歌子	2
占領を解かれた「宮本武蔵」—新国劇版ラジオドラマを読む(三) 承前—	石川 巧	21
<枠組み>の崩壊—井上ひさしコトの世界—	牛 路遥	41
コロナ禍下における堂本光一と『Endless SHOCK』の軌跡.....	後藤隆基	58
江戸川乱歩とコナン・ドイルの『シャーロック・ホームズ』—乱歩による翻訳と論文を中心に—	余 玫欣	78
[書評]雑誌文化研究会と『大宅壮一文庫解体新書』.....	阪本博志	90
編集後記.....	石橋正孝	96

第二十八号(二〇二三年三月)

[インタビュー]乱歩×ハードロック=人間椅子.....	和嶋慎治	2
湖面の恋、湖底の泥—江戸川乱歩と横溝正史、探偵作家が描く<諏訪湖>—	小松史生子	18
旅する乱歩—名張・鳥羽編—	丹羽みさと	34
江戸川乱歩「屋根裏の散歩者」完成地の本尊と大阪守口からの鉄道経路 —三重県亀山市関町岩屋観音をめぐって—	宮本和歌子	49
近現代日本の水上生活者研究史からわかること—「都民俗学」と大衆文化論の接点について	厚 香苗	67
江戸川乱歩旧蔵伊藤晴雨述『新派劇の責場』翻刻.....	後藤隆基	85
編集後記.....	野中健一	112

第二十九号(二〇二三年九月)

[インタビュー]乱歩の小説の謎を追いかける旅.....	齋藤雅文	2
-----------------------------	------	---

江戸川乱歩「疑惑」における息子と父—井原西鶴「大晦日はあはぬ算用」を手がかりに—	宮本和歌子	17
生まれるための「物語」—萩尾望都「A-A´」論	濱下知里	33
江戸川乱歩自筆原稿「指」翻刻と解題	王 羽萌	53
江戸川乱歩「和本カード」目録	丹羽みさと	142
編集後記	細井尚子	143

第三十号(二〇二四年三月)

乱歩はなぜ名張を“ふるさと”と呼んだのか—「ふるさと名張」と「わが町池袋」の出会い	秋永正人	2
侵食する時間と語り—江戸川乱歩「押絵と旅する男」論—	坂下達哉	25
江戸川乱歩と十七代目中村勘三郎の交流—乱歩旧蔵資料『わかなみ』第三号を読む	後藤隆基	45
『大衆文化』総目次(創刊準備号～第二十九号)		69
編集後記	土居 浩	83

第三十一号(二〇二四年九月)

これが人生というものであったか—江戸川乱歩「毒草」論—	栗原宗吾	2
競争する探偵小説—「五階の窓」における乱歩の狙い	茂木杏樹	19
昭和二年(一九二七)の江戸川乱歩—最初の休筆と放浪について—	宮本和歌子	37
旅する乱歩～大島・熱海編～	丹羽みさと	55
<研究ノート>		
男たちはなぜ「脱毛」するようになったのか—一九八〇年代以降の大衆雑誌をめぐる言説史研究—	勝盛智花	75
<資料紹介>		
江戸川乱歩未発表小説草稿「秘中の秘」翻刻と解題	高野奈保	89
江戸川乱歩旧蔵書簡にみる乱歩と戸板康二の交流	後藤隆基	147
編集後記	尾崎名津子	